



しかし、怖気づいてやめるということを繰り返していくうちに、自分を変えられるかもしれないチャンス一つ一つを台無しにしているのだと感じるようになりました。その一回一回で怯えに打ち勝たなければ、いつまでたっ

ても自分を変えることなどできないと思い直したのです。その後、躊躇うことが少なくなったにせよ、それでもまだ脅えに負けてしまうことが多くありました。とりわけコメントや自分の意見を述べる際です。そこでその怯えの原因を考えたとき、自分の言いたいことが意義のあるものかどうかにかんがって思いをめぐらせることが問題であると分かりました。そのため何か言いたいことがあったら、重要かどうかなどを考える前に手を上げてしまうことにしたのです。手を上げてしまえば、私は何か言わなければならない状況に追い込まれます。自分をその状況に追い込むことで、人前で自分の意見を述べることに慣れさせようとしたのです。予想以上にくだらないプライドを持っている私に効く薬はなく、そこまでする必要があったのです。そうしてそれを繰り返すうちに、怯えが少なくなっていくのを感じました。それからは、レクチャー授業でも、コメントを発言できるようになりました。

発言するだけでなく、新しいことに挑戦する積極性を伸ばすことにも、脅える自分を追い込んで強いるという方法がうまく機能したと思います。そのおかげで、昨年秋の大統領選挙ボランティア、留学生組織のボードメンバーとしての活動、ヘッドスタート・プログラムとの国際交流イベント、ホームレス・シェルターでのボランティア、ネイティブ・アメリカンセンターのメンズサークルなど、今まで自分がしてこなかったような組織の一員としてイベントを企画したり、アプルトン・コミュニティに参加して学ぶといった貴重な体験ができたのでした。

何か新しいことや慣れないことに挑戦する際、いつも私は不安を感じていました。挑戦したいという意志を持ちながらも、「でもできることなら逃げ出してしまいたい」という気持ちも存在し、両者の間でいつも葛藤がありました。しかし、そういった葛藤の中で、最終的に自分を変えるために何が必要かと自分に問い、何か自分が今までしてこなかったことに挑戦するという答えが浮かぶのです。それで行動に移れる場合はいいのですが、始めそうでない場合が何度もありました。その場合、とにかく会議やイベントがある場所に自分を連れてくことにするのです。変革のために自分をその場に連れて行き、逃げられないようにするのです。そうしたある種の強制を駆使し、新しい挑戦から得られるものの大きさを実感していくことで、留学生活の後半からは、追い込むことよりも、自分の意志の力で新たな場所を探し挑戦できるようになりました。そこに積極性の向上を見ることができると思います。

3. 「論理的に話す」ことができるようになったか？

留学の三つ目の目的、論理的に話すスキルの養成は、果たすことができなかつたように思います。まずこの目的を設定した際に、私の中で思い違いがありました。留学前、私は、アメリカ人は行間に頼らないのだから、会話においても筋道の通った話し方が求められ、自然と論理的に話すスキルが伸ばせるものだと思っていました。しかし現実にはそのようなことはありませんでした。

ただこの留学を通して、話すスキルにおけるポイントを確認できたように思います。それは、自分の発言を理解してもらうために何が重要かということです。普段私が話すときは、「こういう思考を経て、こういう風に考える」という順序を踏む場合がほとんどでした。つまり、理由を述べて、結論を述べるという順序です。しかし、それではなかなか理解してもらえないということが多々ありました。私の英語の発音が聞き取りにくいのに加え、私の経た思考の筋道をたどって説明する際に、それをうまく説明できずに聞き手を混乱させることが多かったように思います。それに気づいてから、松本先生のクラスで学んだ、まず言いたいことを述べ、その後理由を並べてから、もう一度自分の言いたいことに立ち返るといった話し方を始めました。この話し方を心がけるようにしてからは、私が話している間に、「何を言ってるんだ？」というような顔をされることは少なくなりました。しかし、他の人の発言を聞いていて、言いたいこととその根拠がすんなりと頭に入ってくる場合があり、それに比べ自分の話し方はまだまだだと思えることが多くあります。そのため、今後もこの話し方を磨きながら、論理的な話し方を模索していきたいと思っています。

4. 最後に

私が「自己変革」という言葉を使った理由は、今までの自分を大きく変えたかったからです。けれども今振り返ってみると、大きく変わったと胸を張って言えそうにありません。なぜなら、私が実現してきた変化は、自己変革といえるほど大きなものではないからです。それでも、私は自分がしてきた努力に誇りを持つことができます。なぜなら、自分を変えるというのはおおごとだと分かったからです。知らなかった自分を理解したうえで、新しいことに挑戦する。それは大変時間がかかることでもあります。意気地なしながらもくだらないプライドを持っている私。その私が不安に打ち勝ち積極的に挑戦するにはどうすればいいか。それが分かっただけでも、留学生活は実りあるものだったと思います。夏のインターンでも今後の人生でも、それを生かし自分を変えていきたいと思っています。

最後に、つたない文章にもかかわらず、私の自己変革期を読んでいただき、ありがとうございました。



留学生活を「自己変革」と通して総括した、宇野君の留学先からの最後のレポートです。宇野君、ご苦労様でした。

「自己変革」で大きく成長した宇野君に、この夏の早稲田のクラスで、後輩達に語ってもらおう予定です。楽しみにしています。